

最先端研究開発支援推進会議 議事概要

- 日 時 平成 24 年 4 月 19 日（木）11:40～12:00
- 場 所 合同庁舎 4 号館第 3 特別会議室
- 出席者 相澤議員、奥村議員、白石議員、中鉢議員、青木議員、今榮議員、中野審議官、吉川審議官、大石審議官

議題. 平成 22 及び 23 年度に係る最先端・次世代研究開発支援プログラムの研究開発の進捗管理の実施について

<日本学術振興会梶山審議役から説明>

- 奥村議員 5 ページの所見のフォーマットについてお聞きしたいのですが、区分を 3 つに分けていますよね。4 つ目がないのかなと。つまり、いろいろな環境条件が変わったので、これは途中だけでももうやめたほうがいいのではないかと。
そういうことを申し上げる一つの趣旨は、応募されてきたテーマを見ますと非常に探索的なテーマが多いのですよ。こうやってこうやって、こういうものができるかもしれないと。そういうものは、恐らく外国の人もあるし、この資金をもらわない他の人やっているようなテーマなのですよ。ということは、もう先を越されている可能性があるのですよね。
単に本人が怠けているという意味ではなくて、そういう状況は十分あり得るので、しかも審査したのはもう 2 年以上前の話なのでね。したがって、本人を傷つけるという意味ではなくて、それぐらいの精度で見ていただいたほうがいいのではないかという意味で、少し問題提起させていただいているのですが、そういう議論は出なかったのでしょうか。
- 梶山審議役 私どもが今回のプログラムにおきまして責務としていただいておりますのは、進捗管理ではないかと考えております。進捗管理と申しますのは、やはりそれぞれのプログラムがどのような状況にあるかというときに、そのプログラムをとめるとか、やめろと言う権限までは、さすがに私どもにはないのではないかとということから、このようなことで書かせていただいているところがございます。
- 相澤議員 立場としては、ここではそういう理解が適切かとは思いますが。
ただ、私も少しそこに関連して、今の個票の一番上のランクになっている「当初の計画以上に進展している」という部分が、こういう書き方だと非常に曖昧だと思います。こういうものは、みんな表現として「順調に進んでいる」とか「計画以上には進んでいる」とかであるけれども、要は何なのだとということになると、的確な内容がまとめ切れていないというのが多くのこういう管理状況だと思います。
今、この先行プログラムである F I R S T のフォローアップでは、特筆すべきことは何なのか、そういう観点で、順調に進んでいることはあえて指摘する必要はないだろうという立場をとっています。件数も多いので、特筆的にこの期間、起こったこと、あるいは研究が進展したこと、そのようなことを中心に浮き上がらせるというのが一つの見方ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。
- 梶山審議役 私ども、進捗管理というところで考えていったときに、恐縮でございますけれども、

基本的には、むしろどちらかという、遅れているようなものを見出して、研究者にきちんとそれをご自身で理解していただく、また実際やっていくというようなイメージで、このシステムを考えさせていただいたところがございます。

ただ、今、先生のご指摘にありましたように、「当初の計画以上に進展している」というときの具体性がどれぐらいというところはあるかと思imasので、そこはFIRSTプログラムのところをもう一回拝見させていただきまして、5月10日の会議で諮らせていただければと思っております。

○中鉢議員 奥村議員がおっしゃったことと同意見なのですが、順調に行ったけれども競争に負けたのでは本末転倒なので、今ここでお願いしていることについては、確かにプロGRESSをCHECKするというのはあるかもしれませんが、どこかで今進めている研究の妥当性について議論する場が必要ではないかと思imas。環境変化に対して全く関知しない、ノット・マイ・ジョブにならないようにですね。この制度の問題ではないのかもしれませんが。

○相澤議員 立場上は先ほどのご説明でよろしいのですが、そのようなコメントをどこかに入れていただき、それを私どものほうに投げかけていただければ、こちらサイドの問題として捉えたいと思imas。ぜひお気づきの点はコメントとして残していただくようにしていただければと思imas。

○中鉢委員 依頼主はCSTPなわけですね。

○相澤議員 そうです。

○中鉢委員 では「私たちが頼まれたのは進捗管理だから」とおっしゃっているのでしょうか。

○相澤議員 そうなのです。

○中鉢議員 では、頼み方を変えればやりますと、こういうことでしょうか。

○相澤議員 いえ、これはもう当初の制度設計のところであって思imasので、これはむしろ我々が提示した形で。

○中鉢議員 今のように「コメントを入れてください」とお願いすればやるということでしょうか。

○相澤議員 今、私が申し上げたことは、現在の枠組みの中で反映できることではないかと思imasしたので、そういう言い方をいたしました。

今日ここで開催している会議がこの結果を受けるところであります。ですから、この会議がその結果を受けて、そして、その後どうアクションするかはこちら側になりますので、先ほどの、そのような状況から考えてふさわしいかとか、そういう判断はこちら側ですということなんです。

○中鉢議員 研究開発にとって最も大事なことは、もちろんプロGRESSをきちっと見ることもありますが、私はベンチマークだと思imas。ベンチマークが全くノット・マイ・ジョブというのは、評価と言えるのでしょうか。評価とは言わないのではないかと私は思imas。

○奥村議員 全く同じ意見で、「進捗管理」という言葉を非常に教条的にとらえたご発言だと思うのですよ。ですから、これは言葉としては今から変えられないので、ですから具体的な提案として、今回、進捗管理という中で、先ほど相澤先生が入れたことも一つの視点になると思うのですが、「こういう視点で進捗管理をやってくれ」という一文を出せば、そちらの皆さんも共通理解に立っていただけるのではないかと思いますよ。

こういう議論をここでやっている限り、恐らくJSPSの選ばれた二十数人の先生方も解釈がばらばらだと思うので、我々から提案して、「こういう解釈で進捗管理をお願いします」というやり方をしたらいかがでしょうかというのが私の提案です。解釈ですよ。

○梶山審議役 先ほどご説明申し上げた着目点のところでございます。そこをどのようにやっていくか、私どもが考えたところをご説明させていただいたところでございますが、本日のご意見を踏まえまして、この着目点のところを少し、特筆すべきところ、どういうところという部分も先生方でお気づきの点があればそこを見てくださいますということで行ってまいりたいと考えているところでございます。

併せまして、この参考資料をごらんいただければと思います。次世代プログラムの研究開発の流れを内閣府の担当室の方にまとめていただいているところでございます。

平成 23 年 2 月から 1 年 2 カ月、今の状況でどうなっているかを私どもが見させていただいた後、来年、中間評価を実施されるということ、これは内閣府のほうで実施していただくことをお考えいただいているようでございますので、ここと連携しながらご懸念のところは見えていけるよう、私どもとしても頑張ってまいりたいとは思っております。

○事務局 今、ご説明いただいたとおりで、こういう全体の流れの中で、中間評価の中の研究開発の進捗管理を日本学術振興会にお願いしている、こういう流れでございます。一方、今、ご議論がありましたとおり、この進捗管理あるいは中間評価を踏まえまして、この進捗管理を日本学術振興会のこのメンバーでご議論されるときには、当然今、ここでのご意見を踏まえたようなご議論が確実にあるはずでございますので、こちらでの中間評価をやるに当たっても、今、相澤先生からご指摘があったような含みの議論もぜひこちらに反映できるべく、いろいろ論点あるいは議論があったことを教えてくださいと、こういうことで理解していただければ、ここでの今の議論を踏まえて運用していただけるのではないかと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○相澤議員 それでは、今後、進めるに当たってはプログラム室とも十分に連携をとっていただいて、進めていただければと思います。

(以上)